

うさぎちゃんとのんちゃん

山梨 渡辺 のぞみ

「うさぎちゃん！ バナナ取ってきて！」と大きな声で呼ばれた。私は、彼女に届けると満面の笑みだった。

いつも彼女は、何か用事がある時は、大きな声で私をうさぎちゃんと呼んだ。彼女は特別養護老人ホームで生活している食欲が人一倍多い八十代、女性だ。

私はそこで介護士として働いていた。この業界に入って早五年程経つ。最初のきっかけは、ただなんとなく。人助けができればいいかな。とそんな些細な理由だったが、こんな単純な発想でこんなにもどっぷりになるとは思わなかった。

小柄な私が、ちょこちょこ走りまわる様、うさぎのTシャツを着ていることから「うさぎちゃん」と命名された。彼女は、気さくに私に話しかけてくれた。とても優しい方だった。

その職場を辞する時も、「うさぎちゃんなら、大丈夫！」と背中を叩いて。幾度も励ましてくれた。

そして、今の職場で「のんちゃん、おはよう！」「のんちゃん、海苔の佃煮持ってきて！」と声をかけてくれる。

こう呼んで欲しい。と訴えた訳ではないが、尋ねると「あなたは、気さくな人だからこのほうが似合う」笑って言ってくれた。とてもうれしく今後の糧になったと思う。

介護の現場は笑顔で気持ち良く接してくれることで、プラス思考、前向きにもなれる。名前の呼び方ひとつで相手との距離が縮まり安心、安楽の介護の基本に直結していると思う。確かな技は大事だが、それ以上に相手の気持ちちをくみ取ったり、一緒に笑顔でいられる事は、一番のこちらの栄養になると思う

未熟者の私を孫のように可愛がってくれる利用者様に日々感謝している。これからも介護士、利用様の垣根を超え、なんでも言える環境を作るのも介護士の仕事だと思った。